

第4章 専攻科修了生に対する社会的評価

4.1 はじめに

本章では、徳山高専の本科卒業生・専攻科修了生が就職しうる企業・行政庁などへのアンケート結果をもとに、「徳山高専の専攻科修了生」に対する社会的評価について考察する。今回（平成30年度）に実施したアンケートの結果を平成24年度に実施したアンケートの結果と比較して分析する。なお、平成30年度のアンケートは999箇所を送付し、253箇所から回答を得ている（回収率：25.3%）。

4.2 アンケート結果の分析

（1）採用実績人数

図4-1に各企業等における徳山高専専攻科修了生の採用実績人数を示す【企業1-2】。253箇所の企業等の内、約13%に採用実績がある。平成24年度のアンケート結果では約14%であり、前回調査よりわずかに減少した。回答件数が増えたことが影響していると考えられる。なお、平成30年度における他高専の専攻科修了生の採用実績は約38%の企業等にある。

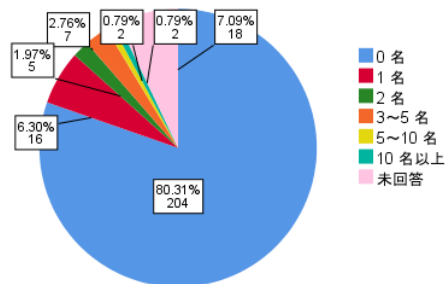


図4-1 【企業1-2】各企業等における徳山高専専攻科修了生の採用実績人数

（2）退職者総数

図4-2に各企業等における徳山高専専攻科修了生の退職者総数を示す【企業2-2】。徳山高専専攻科修了生を採用した企業等の約31%に退職者がいる。

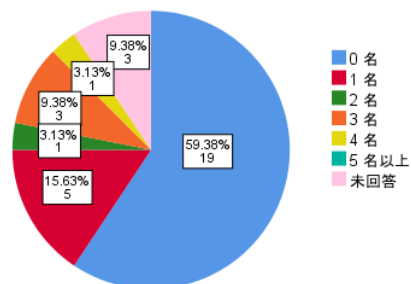


図4-2 【企業2-2】各企業等における徳山高専専攻科修了生の退職者総数

(3) 勤務成績に対する評価

図4-3に徳山高専専攻科修了生の平均的な勤務成績に対する評価を示す【企業3-2】。「非常に満足」と「満足」を合わせて約79%である。平成24年度のアンケートでは約74%であった、平成30年度の満足度は前回の平成24年度よりも若干高くなった。なお、「非常に不満」と答えた企業等は約5%であり、「不満」と答えた企業等はなかった。

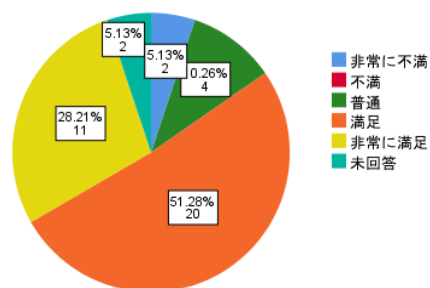


図4-3 【企業3-2】徳山高専専攻科修了生の平均的な勤務成績に対する評価

(4) 複合教育に対する評価

図4-4に徳山高専の複合教育に対する評価を示す【企業4】。このアンケート項目は徳山高専専攻科に限定した項目ではなく、本科を含んだ徳山高専の複合教育について尋ねた項目である。「適切である」と答えた企業等は約81%であり、過去のアンケート結果と比較して若干増加しているが大きな差はなかった。「より多くの分野を複合させた教育がよい」あるいは「専門に特化させた教育がよい」と答えた企業等の割合も若干増加している。この割合の増加は未回答がなくなったことが原因の一つであると推測する。「専門に特化させた教育がよい」と答えた企業等は若干増加傾向であるが約11%に止まり、徳山高専の複合教育は社会的にも有効性が認められていると考える。

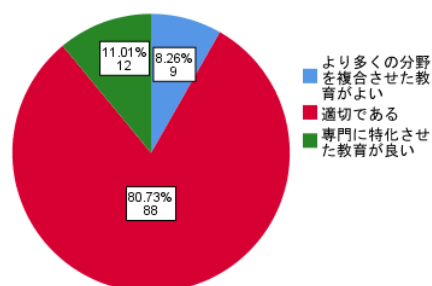


図4-4 【企業4】徳山高専の複合教育に対する評価

(5) 専攻科修了生の英語力に対する評価

図4-5に高専専攻科修了生の英語力に対する評価を示す【企業6-2】。「非常に満足」、「満足」および「普通」と答えた企業等の度数は約33であり、「不満」と答えた企業等の度数は約4であり、非常に不満はなかった。明確に英語力の善し悪しを判断することはできないが、高専専攻科修了生全体としては満足度が高いとはいえないと考える。

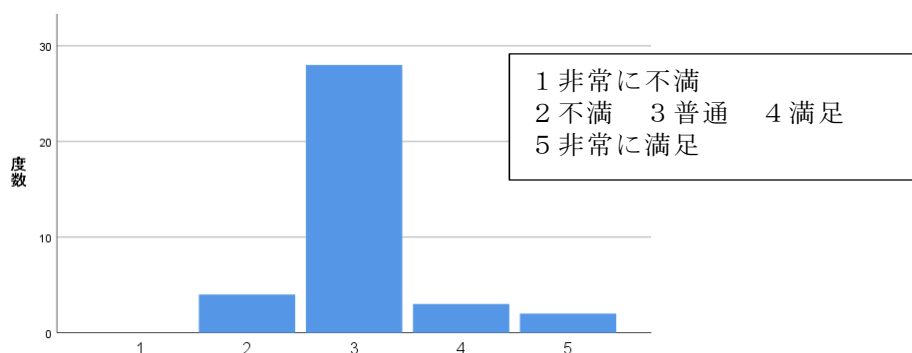


図4-5 【企業6-2】高専専攻科修了生の英語力に対する評価

(6) 専攻科修了生の資質に対する評価

図4-6に専攻科修了生の資質に対する評価を示す【企業7-2】。専攻科修了生が優れていると感じる点を選択するよう依頼した（複数選択可）。「専門基礎知識」が多く選択され、次いで「コミュニケーションスキル」、「責任感」および「協調性」に関する能力が多く選択された。平成24年度のアンケートから選択項目が変更されているので、全く同じではないが類似している。平成24年度のアンケートでは「専門基礎知識」に類似した「専門知識」が最も高く。また平成24年度のアンケートで次に多かった「誠実さ」は、平成30年度では同じ項目がないため、「誠実さ」に関連した「責任感」が高かったと考える。「コミュニケーションスキル」と「協調性」は平成24年度と比較して増加した。特に「コミュニケーションスキル」は大幅に増加した。

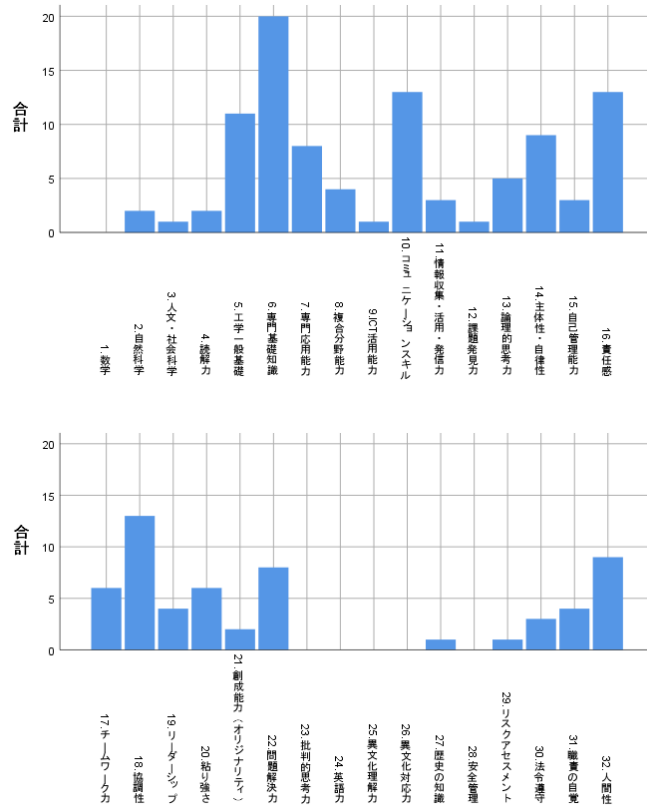


図4-6 【企業7-2】専攻科修了生の資質に対する評価

(7) 推奨されている資格

各企業等に勤務するにあたり、推奨している資格を回答するよう依頼した【企業8】。30件を越えた資格を多い順に以下に示す。他の年度と比較し、順番に違いはあるものの、多く選択される項目にあまり大きな違いはない。

- ① 土木施工管理技士
- ② 建築士
- ③ 建築施工管理技士
- ④ 基本情報技術者試験
- ⑤ 電気主任技術者
- ⑥ 技術士
- ⑦ 電気工事士
- ⑧ 危険物取扱者
- ⑨ 応用情報技術者試験

(8) TOEIC スコアの考慮

各企業等に入社するにあたり、TOEIC スコアを考慮しているか否か尋ねた【企業 9】。「考慮している」と回答した企業等は約 8%である。平成 24 年度のアンケート結果の約 14%から考慮している割合が減少した。

必要とされる TOEIC スコアは「400 点以下」を選択した割合は平成 24 年度と比較して約 6%から約 34%まで増加したが、「500 点」の割合は約 73%から約 37%に減少し、「600 点以上」は約 21%から約 29%に増加した。英語力が必要とされる企業等において求められる英語力は多様化していると推測する。

(9) 情報処理能力の考慮

各企業等に入社するにあたり、情報処理能力を考慮しているか否か尋ねた【企業 10】。「考慮している」と回答した企業等は約 37%である。平成 24 年度のアンケート結果の約 48%よりは考慮している企業等は減少した。情報処理能力が必要とされる企業等においては、高い能力が必要とされる割合も減少傾向であるが、一方で高い能力を求めるコメントもある。情報処理能力は社会全体的に向上してきており、あえて入社時に情報処理能力を考慮する企業等は減少傾向にあると推測され、必要とされる情報処理能力のレベルは多様化していると考えられる。

(10) 学生時代に身につけておくべき資質

図 4-7 に企業等が求める学生時代に身につけておくべき資質を示す【企業 11】。

このアンケート項目は複数選択可とした。「コミュニケーション能力」が最も多く選択され、次いで「主体性・自律性」が多く、さらにその次が「協調性」である。平成 24 年度のアンケートでも「コミュニケーション能力」と「協調性」は多く選択されている。「主体性・自律性」は平成 24 年度のアンケートにはなかった項目である。図 4-6 に示したように、「コミュニケーション能力」と「協調性」はすでに専攻科修了生の資質として高く評価されているが、「主体性・自律性」は専攻科修了生の資質としてはあまり評価が高いとはいえない。「主体性・自律性」を伸ばす教育ができれば、専攻科修了生に対する評価も今以上によくなるであろう。

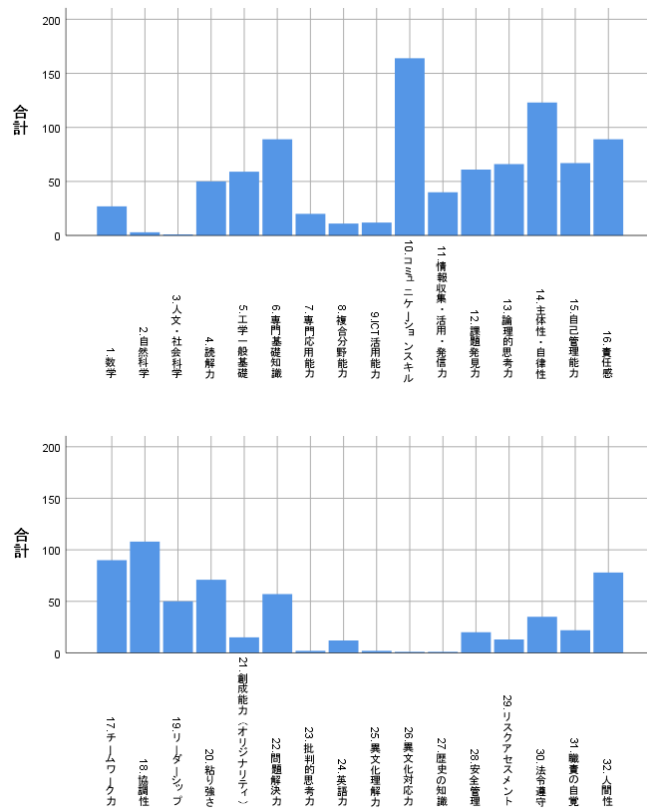


図4-7 【企業11】 企業等が求める学生時代に身につけておくべき資質

(11) 専攻科修了生の採用希望

図4-8に各企業等の専攻科修了生に対する採用希望状況を示す【企業12】。このアンケート項目は徳山高専専攻科修了生に限定したのではなく、高専専攻科修了生全体について尋ねた項目である。「採用したい」を選択した企業等は約81%であり、「採用したくない」を選択した企業等は約1%である。専攻科修了生のニーズは多くあるようである。平成24年度のアンケート結果の約56%よりは大幅に高い割合で「採用したい」が選択されている。

図4-9に各企業等が考える専攻科修了生を採用する場合の職種を示す【企業12】。「設計」が最も多く、次いで施工管理が多く選択され、さらに「システムエンジニア」と「研究・開発」が続く。平成24年度より「システムエンジニア」の割合は増加している。その他の傾向は概ね平成24年度に類似している。本科卒業生と比較した場合、「研究・開発」や「設計」の割合はいずれの年度も若干専攻科修了生の方が大きい、他にはあまり目立った違いがない。

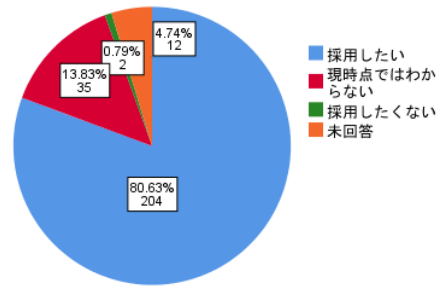


図 4 - 8 【企業 1 2】各企業等の専攻科修了生に対する採用希望状況

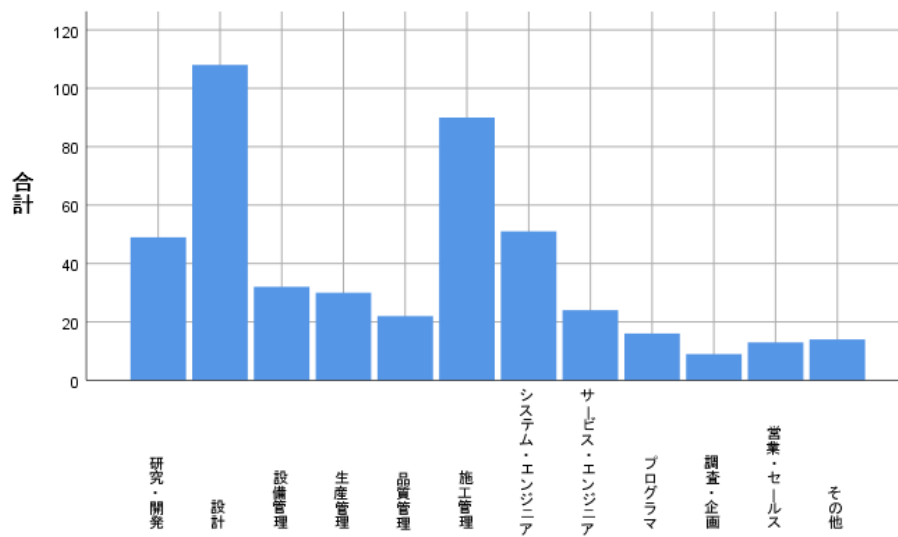


図 4 - 9 【企業 1 2】各企業等が考える専攻科修了生を採用する場合の職種

(1 2) インターンシップ

図 4 - 1 0 および図 4 - 1 1 に各企業等における専攻科生のインターンシップ受入実績および受入希望状況を示す【企業 1 3】。「受け入れたことがある」を選択した企業等は約 15%である。

今後のインターンシップについて「受け入れたい」を選択した企業等は約 40%で、「一度話を聞いてみたい」を選択した企業等は約 34%である。

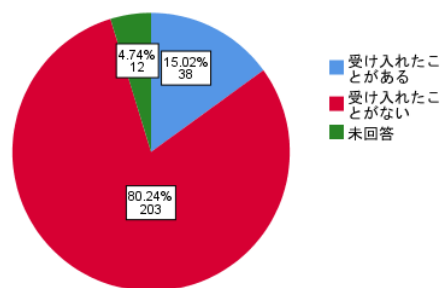


図4-10 【企業13-3】各企業等における専攻科生のインターンシップ受入実績

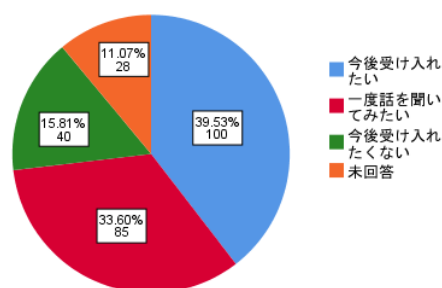


図4-11 【企業13-4】各企業等における専攻科生のインターンシップ受入希望状況

4.3 本章のまとめ

本章では、徳山高専の本科卒業生・専攻科修了生が就職しうる企業等へのアンケート結果をもとに、「徳山高専の専攻科修了生」に対する社会的評価について考察した。

徳山高専の専攻科修了生の平均的な勤務成績に対する評価では、採用した企業等の約79%が「非常に満足」あるいは「満足」と回答しており、概ね満足度は高いと考える。平成30年度の満足度は平成24年度より若干高くなった。

徳山高専の複合教育に対する評価では「適切である」と答えた企業等は約81%であり、過去のアンケート結果との大きな差はなかった。「専門に特化させた教育がよい」と答えた企業等は約11%に止まり、徳山高専の複合教育は社会的にも有効性が認められていると考える。

高専専攻科修了生全体の英語力に対する評価では「満足」あるいは「普通」と答えた企業等の度数は約33であり、「不満」と答えた企業等の度数は約4であった。高専専攻科修了生全体としては満足度が高いとはいえないと考える。

高専専攻科修了生全体の資質に対する評価では、優れていると感じる点として、「専門基礎知識」、「コミュニケーションスキル」、「責任感」および「協調性」が多く選択された。この傾向は平成24年度のアンケート結果に類似しているが、「コミュニケーションスキル」は大幅に増加した。

英語力や情報処理能力を必要とされる企業等は減少傾向であり、求められる能力も多様になってきていると考えられる。学生時代には「コミュニケーション能力」、「主体性・自律性」および「協調性」を身につけることが強く求められている。

専攻科生のインターンシップ受入先は平成 24 年度よりは増加した。インターンシップを受け入れたいと考える企業等は平成 24 年度の約 2 倍になっている。

専攻科修了生を採用したいと考える企業等は約 81%であり、採用したくないと考える企業等は約 1%である。専攻科修了生のニーズは多くあるようである。学生の資質を更に伸ばす教育ができれば、専攻科修了生に対する評価も今以上によくなるであろう。

(担当：力)